



# 帰化アサガオ類の除草技術を開発

—大豆ほ場の問題雑草「帰化アサガオ類」を除草できます—

## 開発の背景・ニーズ

約10年前から県内の大豆ほ場で、帰化アサガオ（以下、アサガオ類）が問題雑草となっています。発生は年々拡大し、2009年現在では県内大豆ほ場のほぼ半数で確認されています。主たる被害は、アサガオ類の蔓が機械作業の阻害をしたり、大豆が減収することです。

従来の大豆作の除草技術では、ほ場内に発生したアサガオ類を枯らすことが難しく、また種子寿命も長いことから、一旦発生すると根絶が困難でした。

そこで、大豆ほ場におけるアサガオ類の除草技術の開発に取り組みました。

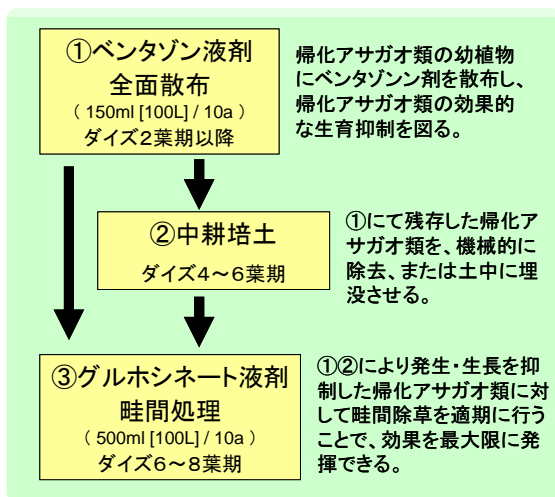
## 成果の内容

省力的なアサガオ類除草法として、乗用管理機にアタッチメントを装着し、アサガオ類に効果の高い除草剤（グルホシネート剤等）を大豆の畦間に散布する手法（以下、畦間除草）を開発しました。1時間当たり約30aの作業能率で作業ができ、大豆の収量はアサガオ類が発生していないほ場とほぼ同等に改善されました。

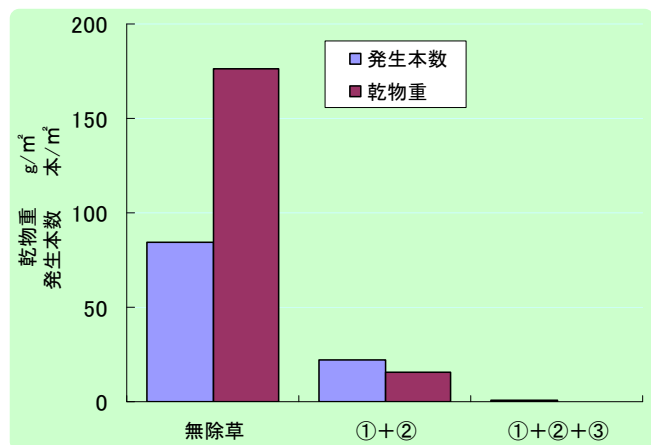
さらに、アサガオ類が多発（㎡当たり40～50本以上）している場合でも安定して除草効果を確保するため、畦間除草の前に従来の除草技術（ベンタゾン剤散布、中耕培土）を用いてアサガオ類の生育を抑制し、最適な条件で畦間除草を行う除草体系を組み立てました。この除草体系を用いることで、アサガオ類多発ほ場でも高い除草効果が得られました。



帰化アサガオ類発生ほ場での畦間除草作業



除草体系のコンセプト



除草体系によるアサガオ類除草効果

除草技術の①～③は、左コンセプト図に示したとおり。調査時期は、ダイズ成熟期。

## 愛知県農業への貢献

この除草体系を用いることで、アサガオ類の繁茂により大豆栽培が困難なほ場でも安定的に大豆栽培ができます。さらに、手取除草と同等の高い除草効果があるため、アサガオ類の種子を少なくでき、発生量そのものを減少させることも期待できます。

【委託研究「担い手の育成に資するIT等を活用した新しい生産システムの開発（水田底力プロ4系）」で実施した成果です】

作物研究部